

《北播磨総合医療センターにおける医療事故等の公表》

令和4年6月 公表

【問い合わせ】管理部経営管理課

病院の基本方針である“安全で、より質の高い医療の提供”の実現に向け、病院運営の透明性を高め医療への信頼を確保するとともに、他の医療機関への情報提供を図り医療安全管理に資するため、北播磨総合医療センター医療事故等公表基準により下記のとおり医療事故等について公表します。

※北播磨総合医療センター医療事故等公表基準はHPでご確認ください。

◇対象期間：令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

◇北播磨総合医療センター医療事故公表基準4の(2)に基づく包括公表

1 医療過誤と判断される事案

該当なし

2 過失は認められないが社会的影響の大きい事例

事象レベル	件数
5	3件

3 事故の概要等は、次の表のとおり。

◇過失は認められないが社会的影響の大きい事案（3件）

事象レベル	事故概要	再発防止策
5	「HBV（B型肝炎ウイルス）再活性化による急性B型肝炎」 ・患者：60代 ・状況と経緯： リンパ腫でR-CHOP療法中。最終投与（8コース目）時、ASTが60程度と軽度上昇していた。その際、HBV-DNAの再検も実施（5ヶ月前の検査では「陰	・HBV-DNA 外注検査結果については、報告当日に検査技師が値を確認し、パニック値検出時には、速やかに検査依頼医師に直接報告するよう院内報告体制を整備した。 ・HBV-DNA 陽性時の消化器内科受診依頼体制を構築した。

	性)したが、外注検査であり、後日のパニック値の結果報告をすぐに確認していなかった。約1ヶ月後に倦怠感・褐色尿で他院受診し、急性肝炎所見あり。直ちに当院紹介入院となり、ステロイドパルス療法・エンテカビル内服投与・AT3 補充療法等を施行するが死亡に至る。	
5	<p>「下血による大腸内視鏡検査後の急変（出血性ショック）」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者：40代 ・状況と経緯： <ul style="list-style-type: none"> 下血にて夜間緊急入院。既往に高血圧・高脂血症あり。症状と単純胸腹部CT画像から大腸憩室出血と考え、朝に便処置を行い、下部消化管内視鏡検査（CS）施行予定とした。入院後も下血持続しており、下剤服用後に大量下血を数回認め血圧低値となるが、補液増量のみで対応。その後、CS施行するが大腸憩室をはじめ出血源は特定できず。CS 帰室直後に意識消失・痙攣出現し蘇生処置施行。ICUに入室し、輸血・昇圧剤等を投与。胃内減圧のため上部消化管内視鏡検査を施行したところ、十二指腸下行脚の静脈瘤からの出血を認め、十二指腸静脈瘤と診断。出血源に対しクリッピング術を施行するが、全身状態改善せず死亡に至る。 単純胸腹部CTに対する放射線診断医の読影では、肝硬変の指摘と静脈瘤からの出血除外についてコメントがあったが、CS までに確認ができていなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・下血時は出血源検索のため、腎機能に問題がなければ、単純ではなく造影CT検査を施行する。 ・CTは放射線診断科の読影コメントを確認し、他疾患や悪性所見の見落としがないよう徹底する。 ・下血の場合は、入院後定期的に採血を実施して貧血の進行を確認し、速やかに血液製剤を投与する。
5	<p>「気管カニューレ定期交換時の迷入」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者：80代 ・状況と経緯： 	<ul style="list-style-type: none"> ・気管カニューレ挿入困難時は固執せず、速やかに経口気管内挿管に移行する。

<p>感染性胸部大動脈瘤術後・CPA 蘇生後低酸素脳症で気管切開・人工呼吸器管理中。2週間前に気管切開術施行(逆U字切開・バイクリルにてフラップ縫合)。切開1週間後の第一交換時には挿入スムーズであったが、同日夕方にリークが出現し、呼吸状態悪化にてカニューレを再度交換。その後、問題なかったが、1週間後の定期交換において、挿入の際に抵抗があり難渋。気管支ファイバーにて内腔確認するが、出血と肉芽にて観察困難で、気道緊急リスクがあり応援要請。カニューレ挿入を継続している間にCPAとなり、蘇生処置を開始するが、カニューレが縦隔に迷入しており、緊張性気胸を生じたため右胸部を切開・脱気し、麻酔科医師にて経口気管内挿管施行。その後、状態改善せず死亡に至る。</p>	<p>・逆U字切開・フラップ縫合による気管切開はカニューレの迷入リスクがほぼないといわれているが、感染・低栄養・循環不全等により気道粘膜の脆弱性が高じた場合には、逆U字フラップの縫合が外れたり、挿入時に粘膜の損傷をきたしてカニューレが皮下や縦隔に迷入するリスクがあるということを念頭に置き、慎重に処置を施行する。</p>
--	--